

学位授与の20年

*Degree-Awarding of NIAD-UE
The First Twenty Years*

1991-2011



独立行政法人
大学評価・学位授与機構

NIAD-UE

National Institution for Academic Degrees and University Evaluation



小平本館
(平成15年4月～)



筑波大学 大塚地区E館
(平成12年4月～平成15年3月)



東京工業大学 長津田キャンパスR1棟
(平成3年7月～平成12年3月)



大学評価・学位授与機構試験（小論文試験）



大学評価・学位授与機構試験（面接試験）



学位記伝達式


学位取得者の美術作品

十字架をシンボルとして用いた起源は古く旧石器時代で、太陽や、地水火風とゆう4元素などを表したのだそうです。それがキリスト教のシンボルになったのは、十字架によって主イエスが磔にされたからです。刑のむごさから、「十字架」と口にするのもおそろしかったようですが、主イエスの死が私たち人間の罪の贖いのためであることが分かかってから、キリスト教徒が、尊敬・名誉・贖罪・犠牲・苦難の表象として、また装飾として、2世紀頃から用いるようになりまし。4世紀になってローマがキリスト教を公認宗教に定めてから、特に十字架刑が廃止されたこともあって、公然と、勝利のシンボルとして掲げられるようになりました。CROSSは、何故かキリスト教以外の人々をも惹き付ける魅力があります。

中心の交差部分に円環がある形の十字架
調和や永続性などの神秘的なシンボルを
中心の円環部分に密かに留めたものではないかとも言われています

自由にデザインし宗教に関係なくファッションとして親しめる十字架

Celtic Cross



Design Cross

「cross exhibition」 萩原 久美子
平成16年学士（芸術学）取得



「沈黙の話し相手」 道源 綾香
平成18年学士（芸術学）取得



「感覚表現」 大口 碧
平成19年学士（芸術学）取得



『生態観察』より「それぞれの目的地」 小林 由希奈
平成21年学士（芸術学）取得

目次

機構長あいさつ —「発刊に寄せて」—	平野 眞一	1
<寄稿> 大学評価・学位授与機構創設20年に寄せて	木村 孟	2
<寄稿> 創設までの経緯を振り返って	田中 郁三	3
<寄稿> 学位授与事業の基本原理について	館 昭	4
<寄稿> 学位授与事業20年の歩みから 国際化の波	岩村 秀	5
<寄稿> 新段階に達した学位システム研究会	潮木 守一	6
<海外寄稿> Meeting The Challenge of Changing Times	Yiu-Kwan Fan	7
年表・沿革		9
1 学位授与事業 —学位授与機構の構想から現在まで—		
第1章 学位授与機構設立の経緯		14
第2章 学位授与機構の発足と学位授与事業の開始		17
<コラム> 学位取得の思い出	田中 暁	31
<コラム> 課題を探求することの楽しさ	渡邊 亮介	32
<コラム> これが私の生きる道		
—オーボエと向き合う人生—	高橋 千絵	33
<コラム> 学位取得の思い出	南 憲吏	34
第3章 大学評価・学位授与機構への改組		35
<コラム> 学位取得で、道が開けました	脇本 直美	42
<コラム> 国立看護大学校研究課程部での学びを振り返って		
<コラム> 学位授与の20年	能見 清子	43
<コラム> 口頭試問に臨んで	山本 頼綱	44
<コラム> 口頭試問に臨んで	篠崎 正郎	45
第4章 独立行政法人への移行		46
2 調査研究		
はじめに—学位審査研究の歩み—		60
第1章 曙光の時代		62
第2章 模索の時代		73
第3章 希求の時代		88
おわりに—高等教育における生涯学習支援に向けて—		104
3 情報提供及び広報活動		
第1章 学習情報の提供		108
第2章 広報活動		110
座談会 新しい学位授与のあり方を求めて	歴代研究部長	113
<コラム> 認定専攻科再考		
—高等専門学校専攻科訪問から—		130
あとがき		134
資料編		
(I) 学位授与の現行制度		136
(II) 関係法規・規則等		153
(III) 参考資料		196
(IV) 評議員, 運営委員, 学位審査会審査委員, 特別措置調査研究協力者, 機構職員歴任者		308
(V) National Institution for Academic Degrees and University Evaluation 2011 : an excerpt (平成23年度 独立行政法人大学評価・学位授与機構概要(抄))		322
機構図		334
決算額の推移		335
機構教職員		336
案内図		338
編集後記		339